

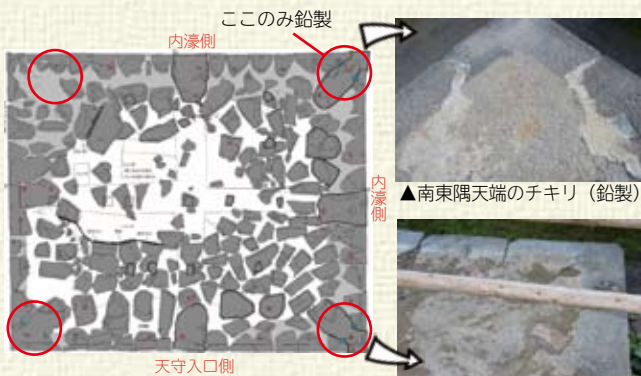
# 弘前城石垣修理

## 第11回～石垣の解体調査～

4月9日に弘前城跡本丸石垣解体工事がスタートして、半年が過ぎようとしています。

現在工事は、天守台部分と本丸東側平場部分を並行して解体しており、解体した石の数は764個で、段で数えると、天守台は西側を残し最大で7段目まで、本丸東側平場は北側の一部を残し最大で3段目まで解体しています(9月30日現在)。これまでの解体工事に伴う調査では、イカ型の隅石、地鎮遺構、刻字石(銘文の刻まれた石)など多くの発見がありました。

イカ型の隅石は、天守台天端の四つ角に設置されており、両側の石をつなぐチキリと呼ばれる鉄や鉛製の金具により固定されていました。また、天端の隅石とその下の隅石は、ダボと呼ばれる鉛製の棒で繋がっている部分も確認されました。このような石垣は他に例がなく、弘前城独特の形と評価されています。



▲天守台上平面図  
※青で示しているのがチキリ(南東隅のみ鉛製で他は鉄製)

地鎮遺構は、天守台上面に敷き詰められていた石を撤去した際に見つかりました。天守台中央西寄りがあり、四角いコンクリート枠の中に蓋付きの銅製容器が置かれ、四隅には同じく銅製の撇(けつ)が立て掛けてありました。容器の表面には墨書で「八円 五円 銅 八円 白銅七円」と書かれ、中にはとっくり2本、おちょこ2個、木札(笏くしゃく)1本が入っていました。とっくりやおちょこに描かれる絵柄が銅版転写技法で描かれていたため、明治以降のものと推定されます。これは大正4年の石垣修理工事で行った地鎮祭の痕跡であると考えられます。



▲地鎮遺構検出箇所



撇 銅製容器



▲容器内出土状況



▲地鎮遺構出土遺物

刻字石については、天守台南東隅のイカ型隅石の下から確認されました。刻字の内容は、「大正四年十月一日 爲 御即位大典 紀念修築之當事者 弘前市長 長尾 義連 (ながお よしつら)」と刻まれています。これは、地鎮遺構と同じく、大正4年の石垣修理工事の記念と考えられます。この石のさらに下からは、工業者や石工の名前の刻まれた刻字石も確認されています。

これからの石垣解体工事では、調査成果から分かった文化財としての石垣の価値や、弘前城独特の技術を生かしつつ、石垣のはらみの原因を改善し、崩れない石垣の復元を目指していきます。



▲イカ型隅石(左)、刻字石(右)

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧ください。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室(弘前公園緑の相談所内、☎33・8739)